

# 春告草

第118号 平成30年9月26日 進路指導部発行

## 2019年度大学入試はこう変わる！

### 東京外国語大 国際日本学部を新設し、英語スピーキングテストを実施

2020年の新テスト（2021年度入試・4年生受験年度）まで2年。センター試験に代わって行われる「大学入学共通テスト」では、記述問題が導入され、表現力・主体性がこれまでよりも評価される。英語4技能も評価され、英語外部検定が導入される。国公立大はもちろん私立大も21年度入試への対応に追われる中、来年度入試では大規模な変更はないが、新テスト導入を見込んだ改定もみられる。首都圏国公立大を中心に、来年度の大学入試の変更点などをチェックしておこう。

### 新增設・改組など

東京外国語大が国際日本学部を増設し、3学部体制となる（関連記事第97号、102号）。千葉大-教育は現行の5課程を1課程7コースに再編する。「大括り募集」は理系学部を中心に行われ、室蘭工大-理工、宇都宮大-工、三重大-工、愛媛大-理・工、佐賀大-工・農が新規に導入する（同第113号）。大阪大-薬は117号に掲載したとおり、4年制学科を廃止し、6年制学科（薬）に一本化する。

公立大では、横浜市立大-国際総合科学部の改組が大規模に行われ、国際教養、国際商、理の3学部に分割される（同第107、112号）。

### 募集人員・日程変更

東京農工大-工も改組があり、8学科→6学科に再編されるが（同97号）、募集人員の変更は要チェックだ。「前期削減、後期増加」となるが、後期で学力上位層をとりたいたいというねらいがあるとみている。

首都圏ではないが、東北大-文・法・理のAO入試募集枠拡大、前期試験募集枠削減はマークしておこう。募集人員の一般入試から推薦・AO入試への移行は、室蘭工大-理工、秋田大-国際資源・理工、大阪大-経済・工、九州工大-工・情報工でも見られる。国公立大における推薦・AO枠の拡大は、最近数年間継続している。

### 募集単位の変更

東京工業大は第62号（2017.5.25発行）で最初に紹介したように、いよいよ来年度入試より類別入試から学院別入試に移行する。入試科目、センター試験の取り扱い、配点比率に変更はないので、受験生の立場からすれば、必ずしも大きな変更ではないかもしれないが、希望する学院を第1から第3までの順位をつけて出願することになる。全体の合格ラインを決めてから、得点順に所属する学院を決めるので、「どの学院が有利か？」などを考慮する必要がないことは、第112号で説明した。

### 2段階選抜

横浜市立大-データサイエンスは2年目の入試を迎えるが、後期で2段階選抜を新規実施する。東大-理三は今年度入試から面接を取り入れたが、2段階の予告倍率を約4.0倍から約3.5倍へと引き締める。面接に時間がかかったことによるものと聞いた。他に、東北大-教育・工・歯、筑波大-医、千葉大-法政経なども引き締めがある。逆に、大阪大-外国語（前期）、神戸大-法（後期）では倍率の緩和がある。

### 一般入試科目

東京外国語大-国際日本（新設）は前期での実施で英語スピーキングテスト必須であるが、既設2学部も将来的に導入する計画がある。こういった21年の「入試改革」を意識した変更は、愛媛大-理（前期）の調査書点数化、佐賀大-理工・農（前・後期）で提出書類に「特色加点申請書」を追加するなどの動きがある。6年生だけでなく、5年生、4年生もこういった入試の動向については、注意深く見守っていかなければならない。

個々の大学について変更点をみていこう。

### 筑波大

①知識情報・図書館(前期)で50人→40人に募集減(推薦30人→40人)。／②社会工(前期)で80人→83人に募集増(AO廃止)／③医(前期)で募集人員を77人→72人に削減し、2段階選抜予告倍率を「約5倍→約2.5倍」に引き締める。

### 埼玉大

教育-中学社会(前期)の個別試験で「総合問題→小論文」に変更。

### 千葉大

①教育を「5課程→1課程7コース」に統合・改組。定員減(405人→390人)に伴い、前期を315人→297人に募集減。／②工で募集人員を「後期→前期・AO」に移行(前期459人→466人、後期141人→124人、AO20人→30人)。／③薬で6年制の薬学科を定員増(40人→50人)。薬(前期)を60人→70人に募集増(学部一括募集)。／法政経(後期)で75人→70人に募集減(AOを導入)。／⑤法政経2段階選抜の予告倍率を(前期4倍→3.5倍、後期15倍→13倍)に引き締める。／⑥薬-薬科学(後期)で、個別試験を「総合問題→理科2科目」に変更。

### 東京大

理科三類2段階選抜の予告倍率を「約4倍→約3.5倍」へ引き締める。

### 東京海洋大

海洋生命科学・海洋資源環境(前・後期)の出願資格で、英語検定利用が全面的に必須となった。(これまでの経過措置は撤廃された。)

### 東京外国語大

①「国際日本学部」(定員75名、前期35名、推薦10名、留学生など30名)を増設。個別試験で英語スピーキングテストを課す。／②これにより、既設2学部は定員減がある。さらに、推薦入試枠の大幅拡大があり、一般入試の募集人員は削減される。

### 東京工業大

#### 東京工業大学の募集単位変更

①「類別募集→学院別募集」に移行。ただし、前期は全学一括募集で、希望順に3学院を選択して出願し、成績順に学院が決定される。後期は、生命理工学院のみで実施。／②全学で886人→900人と募集増(AO枠は97人→85人)。

#### 2018年度入試 (類別募集)

第1類 前期 175 推薦 10
第2類 前期 73 AO10
第3類 前期 96 AO10
第4類 前期 183 AO20
第5類 前期 177 AO20
第6類 前期 87 AO17
第7類 前期 95 後期 36 AO20

#### 2019年度入試 (学院別募集)

理学院 前期 143 推薦 8
工学院 前期 314 AO34
物質理工学院 前期 160 AO18
情報理工学院 前期 86 AO6
生命理工学院 前期 105 後期 35 AO10
環境・社会理工学院 前期 92 AO17

### 東京農工大

工を「8→6学科」に再編・統合。募集人員は前期326人→284人と削減し、後期は160人→183人に増加。推薦25人→37人、AO 10人→17人とそれぞれ増加。

### 埼玉県立大

保健医療福祉の次の学科・専攻で、センター試験の科目軽減がある。理学療法(前期)=5教科7(8)科目→4(5)教科5科目、作業療法(前期)=4(5)教科6科目→4(5)教科5科目、検査技術科学(前期)=5教科6(7)科目→4(5)教科5科目、理学療法(後期)・作業療法(後期)=数学2→1科目。一方、検査技術科学(後期)は、2(3)教科3科目→4(5)教科5科目に負担増。

### 横浜市立大

①国際総合科学を3学部(国際教養・国際商・理)に分割・改組する。一般入試は前期のみの募集で国際教養160人、国際商190人、理70人。／②医-医(前期)の募集人員を85人→80人に削減。／③データサイエンス(後期)で2段階選抜を新規実施(予告倍率は約20倍)。

#### 横浜市立大学学部増設・改組

#### 2018年度入試

国際総合科学部 計 650
国際教養学系 140
国際都市学系 120
経営科学系 250
理学系 140

#### 2019年度入試

国際教養学部 計 270
教養学系
都市学系
国際商学部 計 260
理学部 計 120

(注)医学部、データサイエンス学部は変更なし

## 2019年の私大入試

国公立大同様、2021年の「入試改革」を2年後に控えた2019年度入試において、入試の変更点は前年までに比べて少なめだ。その中で、英語の外部検定を利用する方式の導入が相次いでいる。本校生徒が多く受験する大学に焦点をあてて次年度入試をレポートしてみたい。

### 入学定員の厳格化+東京23区内の定員増や増設不可で競争が激化

都市圏大規模私立大学への学生集中を抑制する対策として、入学定員を上回る数を入学させた大学への補助金不交付措置が2～3年前からとられるようになった。入学定員超過率のラインは、大規模校（収容定員8千人以上）で1.10倍、中規模校（同4千人～8千人）で1.20倍と厳しいまま固定される。この為、私大各校は合格者の絞り込みを厳格に行うようになり、補欠候補になっていても、合格通知がこないケースが多いという。この為、受験生は受験する大学・学部を増やし、入試倍率を上げる要因にもなっている。受験生数増加、合格者数減少が最近の私大入試事情だ。

さらに2019年度から、東京23区内に立地する大学については、定員増や学部等増設の申請が、今後10年間不可とされた。

「併願割引」など私大独特の入試制度もあり、東京23区内の難関～中堅上位校は軒並み難化が見込まれ、首都圏のその他の地域や京阪神地区への併願増も予想され、大きな変動要因となりそうである。

### 英語外部検定利用

2021年の入試改革の「目玉」の一つが英語外部検定利用であるから、これについては各大学とも積極的に導入を図っている。利用の仕方は「出願資格」「得点換算」「加点」の3パターンだ。詳細は別号で解説するが、志望大学がこのパターンのどれを採用しているのかしっかりと確認しておかなければならない。

### インターネット出願

インターネット出願は、2018年入試で私立大全体の6割を超えた。しかも大規模校を中心に、主だった大学のほとんどが紙の願書を廃止する全面移行である。募集要項も大規模校を中心に紙媒体の要項を廃止し、各大学のホームページからダウンロードする形式へと切り替わっている。各家庭でのPC環境の整備もぬかりなく行っておきたい。

### 各大学の変更点（本校生徒が多く受験する大学を中心に）

#### 青山学院大

①「コミュニティ人間科学部」を相模原キャンパスに開設（予定）。／②文・英米文 個別学部日程C方式で出願資格の英語外部検定（TEAP）のスコアを新たに得点換算化する。／③経済 個別学部日程B方式で、英語外部検定利用と国語を廃止し、「大学独自の英語と数学の2科目」に変更し、募集人員も増加（15人→45人）。

#### 中央大

「国際情報学部」（新宿区）、「国際経営学部」（多摩）を新設（予定）。

#### 東京理科大

理2部で、A方式（セ試利用）を3学科共通の2教科2科目から「数学科＝2教科3科目、物理学科・化学科＝3教科4科目」に負担増。また、B方式（一般）も物理学科・化学科は「2教科2科目→3教科3科目」に負担増。

#### 日本女子大

①人間社会で「英語外部試験利用型一般入試」を新規実施。一般入試日と同日実施で同時併願可（出願資格、英語以外の2科目で判定）。／②家政（児童）のセ試前期を4→3教科軽減（数学が必須から選択に）。

#### 法政大

文・デザイン工で「英語外部試験利用入試」を導入する（T日程と同日実施）。

#### 明治大

経営・国際日本・農・総合数理の全学部統一入試で、英語外部検定利用（4技能）が可能に（得点換算、総合数理は4科目方式）。

#### 立教大

全学部（文・独文を除く）のセ試利用入試で6科目型を新規実施し、4科目型を廃止。ただし、理は従来の4教科型（6科目）を名称変更。

#### 早稲田大

教育で指定校推薦の導入に伴い、一般入試の募集人員を削減（700人→560人）する。

# 電通大が進学イベントを3つ開催

## ◇高校生・受験生のための模擬授業 ～都民の日に「3つの類」の授業を体験しよう～

開催日時 10月1日(月)12:40～17:30(受付12時～)

会場 電通大 80周年創立記念会館「リサーチ」3階会議室

内容 I類(情報系)、II類(融合系)、III類(理工系)の教員がグループワーク・発表を含む講義

今回は情報理工学分野の中から、半導体、コンピュータ、省エネ、光ファイバ、電磁波、通信、光、確率、ビッグデータなどをテーマとした授業を聴講後、参加者同士が交流を行う。

対象 電通大志望者

プログラム詳細・申込 [https://www.uec.ac.jp/news/event/2018/20180828\\_1211.html](https://www.uec.ac.jp/news/event/2018/20180828_1211.html)

締め切り 9/27(木)まで、上記に個人で申し込む

## ◇電通大 in たづくり 電気通信大学創立100周年記念事業

電通大のルーツは1918年に創設された「無線電信講習所」。その創設日に合わせて12月8日に創立100周年記念式典が開催されるが、これに先立ち、記念事業の一つとして、調布市文化会館たづくり内で「電通大展」が開催される。開催期間は10月7日(日)から16日(火)までの9日間(10月10日は展示品入れ替えのため、展示公開はお休み)である。開催期間中3日間ごとに、同大学で研究されている技術などを公開する。申込不要、参加費無料であるので出かけてみては如何?ただし公開時間は16時までとなっている。

オープニングセレモニー 10/7(13時から14時)

第1クール10/8(祝)、9(火)

バルーンロボット公開、ヘビ型ロボット模擬体験、モールズ体験

第2クール10/11(木)～13(土)

「りっかーたん」体験、音声変換システム体験、プロジェクションマッピング体験

第3クール10/14(日)～16(火)

3Dメガネなしで体験するCG映像、「ふらっとFLAT」で酔っ払いを疑似体験、アバターロボットアームを操ろう

プログラム詳細 <https://www.uec.ac.jp/100th/pdf/20180903.pdf>

申込不要

## ◇オープンキャンパス

夏のオープンキャンパスに引き続き、大学祭(調布祭)の最終日にオープンキャンパスが行われる。プログラムの詳細は追って発表されるが、例年は研究室公開も行われて、理工系進学希望者にとっては大変有意義なイベントになるはずだ。これから進路を決める4年生にとっても、理系大学を知る良いチャンスとなるだろう。

開催日時 11月25日(日)10時～17時

※高校教員対象入試説明会も同時開催(12:30～14:30)

## 「都立大」復活。

首都大学東京が2020年4月から大学名を「東京都立大学」へと変更することが発表された。

首都大は2005年4月に、それまであった都立3大学と1短大(東京都立大、東京都立科学技術大学、東京都立保健科学大学、東京都立短期大学)を統合して開学した大学である。開学から13年、ようやく「首都大」の名前が定着してきたと思っていたが、15年目で元の大学名に戻る事となった。学部の大規模な改組が今年度実施され、都立大時代の学部が復活したが、大学名も復活することになった。就職活動の際、私立大学と間違われることや、聞きなれない学部名でいろいろと問題があったと聞いた。伝統を築き上げる前の変更は残念である。校名変更が、志願動向にどう影響するか不明であるが、少なくともマイナス要素ではないだろう。動向に注目しておくといいだろう。